

# 透析医療の現場を訪ねて FROM B.P. ROOM



京都民医連あすかい病院



川端診療所

公益社団法人 信和会

## 【京都民医連あすかい病院・川端診療所(京都府京都市)】

公益社団法人 信和会 京都民医連あすかい病院・川端診療所は、京都にある歴史ある施設であり、透析を含めた最新の医療を提供する一方で、障害者や社会的に困難をかかえた患者さんへの支援等に力をいれるなど、地域のニーズに合った医療・介護を展開している。施設の概要について伺った。

### 病院概要 ● 公益社団法人 信和会 京都民医連あすかい病院

所在地 〒606-8226 京都市左京区田中飛鳥井町89番地  
開設日 1937年 安井医院として開業  
2019年 京都民医連第二中央病院から  
京都民医連あすかい病院に改称し新規開業

公益社団法人 信和会理事長：小林 充  
京都民医連あすかい病院院長：中川裕美子  
診療科 内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、外科、肛門外科、婦人科、整形外科、精神科、皮膚科、消化器内科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、リウマチ科、アレルギー科、脳神経内科、心臓内科

透析ベッド数 14床 透析患者数 約30名

### 病院概要 ● 公益社団法人 信和会 川端診療所

所在地 〒606-8384 京都市左京区川端通夷川上ル新生洲町100  
開設日 1954年 所長 田中義浩

診療科 内科、整形外科、漢方外来、循環器科、皮膚科、禁煙外来  
透析ベッド数 37床 透析患者数 約90名

#### Interview ①

武田英希先生

HIDEKI TAKEDA

竹内啓子先生

KEIKO TAKEUCHI

公益社団法人 信和会 京都民医連あすかい病院 医師



当院のある京都市左京区は大学との関係が深い土地柄です。近隣に京都大学医学部附属病院、川を隔てて京都府立医科大学附属病院があって、当院も大学病院と非常につながりの深い関係になっています。また、近隣の開業医、介護事業所等と連携しながら、大学病院から当院に一旦入院され、リハビリを受け、療養施設や在宅に帰る中継地点のような役割を担っており、救急から在宅医療、介護まで幅広い取り組みを行っている病院です。

当院は京都民医連に所属しており、経済的に不安のある方も安心して療養できるように、無料・低額診療事業にも取り組んでいます。例えば、入院時は差額ベッド料はいただいているということも非常に特徴的かと思えます。また、外来、入院、在宅のいずれの分野でも、地域の方を対象にリハビリにも非常に力を入れています。当院には回復期リハビリ病棟もあり、それと透析を併設している施設は少ないのではないかと思います。

### 歴史ある透析医療環境を一新

当院では血液透析は1974年から取り組んでおり長い歴史があります。当時の台帳が残っていて、それを見ると黎明期は内シャントだけではなく、外シャントで行っていた記録が残っています。当院は、本年4月に新築し、現在の病院名に改称されました。新築移転にあたっては、透析センターがまず優先され、スペースを広く取ってもらい、透析ベッド数も10床から14床に増床し、透析機器も全てリニューアルしました。



↑あすかい病院透析センタースタッフの皆さん

透析室においては患者さんの待合室もかなり広く取り、落ち着いた雰囲気です。リラックスして透析を受けてもらおうということで、室内は木目調の壁紙を使用しました。照明もダウンライトも取り入れて、穿刺のときは明るく、透析中は照度を落とせるようにしました。また、更衣室の床は畳を採用するなど、心地よく過ごしていただけるよう配慮しました。



↑更衣室は畳を採用

### しっかり食べてしっかり透析

当院の透析治療の特徴としては、on-line HDFを積極的に行っていることで8割の患者さんに施行しています。患者さんの指導においても、しっかり食べて、しっかり透析を行うことに重点をおいており、必要に応じて患者さんやご家族に食事等のアドバイスをしています。リンのコントロールに関しては、内服薬を調整し管理していますが、ご高齢患者さん等では食事量が減少するとリンやアルブミンが下がってくるので、効率を下げてもマイルドな透析に切り替えたりしています。

### 病院と在宅を繋ぐパイプ役も

当院では往診にも力を入れており、往診センターで約400件ほど管理しています。慢性腎不全の患者さんも結構いらっしゃいますので、私(武田先生)もその往診医メンバーの一員として、在宅でもリンや腎性貧血の管理を行いながら、適切な時期に病院でシャントを作製し、透析導入を行い、当院に入院や外来通院あるいは川端診療所での通所透析へと移行する場合があります。

### 働きやすい職場を目指す

当院は、女性の医師やスタッフも働きやすい職場環境を整えるように努めており、院内保育所もあり、夏季休暇時や台風等緊急事態でもできる限り子供を預かる方針で、病院には、子育ての忙しい時期にはワークライフバランスを考慮した人事配置で対応してもらっています。職員を対象にした職場の満足度調査でも、満足度が高いという結果を得ています。これからも患者さんもちろんですが、スタッフにも優しい病院を皆で目指せればと思います。

当院は地域との結び付きが強く、前述のように、近

くに大学病院もあるので、他の病院との連携を大切にしながら、当院でできる高水準の透析を今後も続けていきたいと思っています。

#### Interview ②

田中義浩先生

YOSHIHIRO TANAKA

公益社団法人 信和会 川端診療所 所長



当診療所は、京都民医連の診療所として、もともと地域の住民の方々が住民のための医療体制をという運動によって作られた診療所で、1954年に開業しました。約65年という長い歴史を有し、現在、診療所は内科一般外来を主軸に、腎、循環器などの専門外来、また整形外科、皮膚科を展開し、さらに漢方外来と幅広い分野で診療しております。

透析には、1988年から取り組んでおり、京都の中でも比較的歴史のある透析施設であり、京都市左京区のみならず、京都全体の地域から患者さんに来ていただいているので、透析医療において信頼いただいているのではないかと思います。

透析治療も日進月歩ですので、最新の治療を取り入れることによって最善の医療の提供に努め、現在は9割の患者さんにon-line HDFを施行しています。on-line HDFの場合は、尿毒症性物質が効率よく除去されますが、ヘモダイアフィルタや条件を工夫することによって、栄養状態が悪い患者さんでも安全にon-line HDFを行い、個々の患者さんの状態に合わせた最適な透析治療の提供するように努めています。当然、糖尿病や、高齢患者さんが増加している中で、透析治療のみならず、個々の患者さんの暮らしや介護の面も併せて目を配りながら、安全に外来通院できるよう徹底した点検を行いつつ、取り組んでいます。

### 外来診療も充実

治療は、あすかい病院と連携し腎臓内科の専門医5人体制で治療に当たっています。また京都大学医学部附属病院と京都府立医科大学附属病院もすぐ近くにあるので、大学の教室から医師の協力も仰ぎながら連携を密にとり、その面でも非常に高い水準の医療を展開しています。

前述のように当診療所の一般外来では腎臓、糖尿病、循環器疾患も専門医が診ており、保存期の腎不全から透析に至る患者さんの管理もしっかり行っています。透析患者さんは内臓疾患のみならず、皮膚疾患等、非常に合併症が多くなるので、外来でも

## 【公益社団法人 信和会 京都民医連あすかい病院・川端診療所(京都府京都市)】

皮膚科や整形外科の専門医に診ていただいて、透析患者さんの日常生活に不快で困っておられる合併症にも応えるような診療体制を整えています。

さらに、当診療所には、川端鍼灸治療院が併設されており、西洋医学だけでは解決し難い問題については、東洋医学の面からもアプローチを試みるなど、総合的な診療に努めています。

## トータルな患者さんケアが使命

透析患者さんにおいては高齢化とともに、特にリハビリが非常に重要な課題でもあります。当診療所にはリハビリ専門スタッフも勤務しているので、高齢透析

患者さんのフレイル、サルコペニア対策にも注力していきたいと考えています。

高齢化で、自分の足で通えない患者さんも増えていますが、それを少しでも自分の足で元気よく通院できるように取り組んでいます。また、看護師、臨床工学技士も患者さんのお宅を訪問して、家屋の状況やご家庭での状況をできるだけ早く確認することによって、問題点の解決に向けて病院スタッフや開業医、訪問・介護スタッフなど地域の方々とも一緒に考えていこうというスタンスで取り組んでいます。



↑川端診療所スタッフの皆さん

あすかい病院透析センターでは、常勤5名と非常勤看護師1名が勤務しています。近年は、患者さんの高齢化が進み、一人暮らしや、介護が必要な方、老々介護の患者さんが増えてきました。そこで私たちは、透析センターだけでなくできるだけ患者さんのご自宅を訪問するなどして、生活全般の



谷淵末生  
看護師長  
京都民医連  
あすかい病院

見守りを行うことに努めています。患者さんのご自宅を訪問すると、実際に暮らしぶりや部屋の中の動線、トイレや浴室の状況などを把握できるので、日常生活のアドバイスもより具体的に行えます。なかには、認知症の患者さんが、服用すべき薬をご自宅に数千錠も放置しているのを発見し、薬剤師と協力して薬剤指導を行ったり、薬剤の処方方法を工夫するなどしました。これも家庭訪問の成果の一つといえます。また、寝ている布団の前にストープがあったり、そうした家庭内の危険なポイントがいくつかあることもわかりました。安全に通院してもらうために、これは医療だけで完結する話ではないということで、介護関係者にも透析患者さんのことをぜひ知ってもらおうと、介護スタッフ対象の透析勉強会を行いました。介護事業所に呼び掛けて、20人を超えるケアマネージャーや訪問看護師に参加していただくことができ、ご好評をいただきました。家庭訪問から今後、医療と介護のさらなる連携の必要性という課題も見えてきて、病院のスタッフの活動は病院内だけでなく、外にも目を向けることの重要性をあらためて認識しました。

## ニュースレター等で情報提供に

当院では、透析センターニュースを定期的に発行し、患者さんへの情報提供にも努めています。例えば、夏の暑い時期には水分摂取の重要性や熱中症対策等の情報提供を行ったりしています。また、外来通院の患者さんには、誕生日カードを進呈して皆でお祝いして患者さんに喜ばれています。それらを含め日常のコミュニケーションの円滑化には気を配るようにしています。

## デスカンファレンス

透析患者さんは合併症を起しやすく、なかなか突然死を防ぎきれない現実があります。私どもは患者さんと2日に1回のペースでお会いしているだけに患者さんが突然亡くなると、スタッフのショックも小さくありません。そうした場合は、遺族訪問を行って患者さんのご遺族にお話を聞いたり、スタッフでデスカンファレンスといいますが、緩和ケア病棟の緩和ケア認定看護師にも関わってもらい、その患者さんのケアを振り返ります。看護のメンタルケアの改善といったところも意識したカンファレンスを通じて、有意義な経験にさせてもらうというかたちで乗り越えていくようにしています。

川端診療所では看護師10名と看護助手が1名勤務しています。通常の日中透析の他に夜間透析(17時~23時)を行っています。周辺には夜間透析を行う施設が少ないので、比較的市内広域から来られているという状況です。



榎田寿美  
看護師長  
京都民医連  
川端診療所

あすかい病院との連携もよくとるようにしており、病院を退院されて、当診療所で通所透析へ移行する場合は、病院退院後からのスタートでは、なかなかスムーズにケアできないので、あすかい病院の退院カンファレンスに参加し今後の患者さんのサポート体制を一緒に決めています。

病院退院時は、以前の通所していた頃より、ADLがかなり悪くなっている場合もあるので、いろいろなサポートを行う場合は、依頼する介護事業所の選択も重要です。看護部の仕事は、病院等とのパイプ役になるというのが、非常に重要になってきています。ヘルパーさんも、いまは30分単位の拘束になりますので、透析時間を調整してヘルパーさんにも支障がないように患者さんに付き添ってもらい、送迎に関しても、かなり気を使うことが増えました。

## 旅行透析にも対応

最近では、京都という土地柄だけに旅行中に当診療所で透析される方が増えています。街中でアクセスがよいので、諸外国の方も結構来られます。国によっていろいろなシャントがあったり、患者さんはプライベートなことでもオープンに話してくれるので、私たちが少しリフレッシュできる感覚で対応でき、勉強になります。日本国内も北海道や沖縄など遠方からも来られ、リピーターも少なくありません。昼間に観光して夕方から夜間透析というパターンにも対応しています。

## 多彩な看護業務

透析はVA管理のストレスも多く、私たちが最も気を使うところです。臨床工学技士、看護師がVA管理の専門チームをつくって、シャントの状態が不良な患者さんに関しては、医師も含め集中的にきめ細かく取り組んで、早めにPTAを行うなど、シャント不全の状態をできるだけ避けるということに徹底して取り組んでいます。

透析患者さんとの関わりは非常に長期間に及ぶため、スタッフは自身の家族よりも長い時間お付き合いしているかもしれません。その患者さんが最終的にご自宅で生活できなくなって、施設に行かれると非常に寂しいですね。ご家族が支えきれずに施設に行かれる方もおられるので、何とかそこは患者さんの思いに寄り添いながら、できるだけのことを病院と診療所、そして在宅介護分野と連携しながら対応していこうと努力しています。

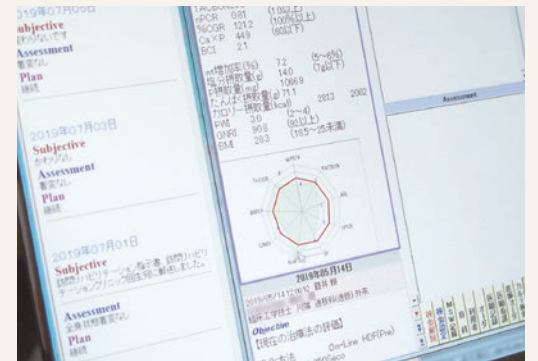
臨床工学技士は11名おり、あすかい病院と川端診療所の両施設で勤務ローテーションを行っています。

私は情報システム部の責任者でもあるので、患者さんのデータ管理については、視覚的に分かりやすくしようと、透析量や運動量、栄養状態等のデータをレーダーチャートで即座にみられるような工夫をし、さらに、フットケアの管理記録表や、シャントの管理表等を電子カルテに組み込みました。電子カルテと透析システムが一体化しているのが特徴で、経時的にチェックできシームレスで非常に見やすく、それを見れば現在の患者さんの状態がすぐ評価でき、医師や看護師も治療やケアの方針にフィードバックすることができています。



藤井 耕  
臨床工学技士長  
公益社団法人信和会  
情報システム部長

また、あすかい病院と川端診療所のカルテが全て共通で、共有化されています。例えば川端診療所の患者さんの状態が悪化し、あすかい病院で入院治療が必要になっても、川端診療所での記録が全て把握できるのでスムーズな連携治療が行えて役立っています。



↑レーダーチャートが組み込まれた電子カルテ画面の一例

## 多彩なチーム活動

川端診療所では、少ないメンバーながら、VAチーム、PAD(末梢動脈疾患)チームや、合併症を担当する4つのチーム、さらに感染対策、医療安全、透析液管理チームなどがあります。そこに、いろいろなスタッフが重複して配置されミーティングやカンファレンスも頻繁に行われています。非常に多彩なチームが様々な活動を通じて、お互いに影響を及ぼしながら全体の医療の質の向上に貢献していると思います。

また、私どもは積極的に学会発表にも取り組もうということで、個々のスタッフがそれぞれの課題を持って、継続的に課題を追求しており、データを蓄積させて、地方学会から全国学会まで発表できるしっかりした良い研究に繋げていこうと努力しています。

今後は、医師や看護師からのアドバイスをいただきながら、技士としてもSDH(Social Determinants of Health:健康の社会的決定要因)の視点で、治療のみならず患者さんの経済面や環境面等の社会的要因も考慮した質の高い医療を通じて、患者さんによりよい生活をしてもらえるように努力していければと思っています。